

# 歯つらつ

2017年5月

254号

～発行所～

齋藤歯科診療所  
由利本荘市美倉町 47-1

フシノヨイハニ

0120-24-4182

FAX 0184-24-1440

www.saitoshika.net

～診療時間～

曜日:月曜日～土曜日  
時間:午前 9:00～1:00  
午後 2:00～6:00

～休診日～

日曜・祝日  
第2・4木曜日

前号に続き、義歯について  
お話し致します。

義歯を使っておられる方は  
ご存知かと思いますが、長い  
年月義歯を使うと、義歯とあ  
ごの粘膜の間に食べ物挟ま  
り易くなったり、咬む時に力  
が入りにくくなったりするこ  
とがあります。

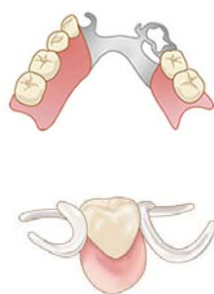
理由としては、義歯と義歯  
が乗るあごの変化によること  
が多いです。義歯もあごも使  
用していくうちに少しずつ変  
化していくのです。

義歯の人工歯は、長く使用  
しているとすり減ります。歯  
にかけるクラスプ（バネ）も、  
着脱を繰り返すうちに緩くな  
ることがあります。

義歯を支えているあごはど  
うでしょうか。例え一本でも

## 義歯シリーズ2 リライニング

歯を抜いたところは、時間と  
共にあごが痩せていく傾向に  
あります。歯がなくなると、  
その周囲の歯槽骨は本来の役  
目を終えたことになり、少  
ずつその高さや幅を失ってい  
くのです。これを廃用性萎縮



といえます。特に抜歯をして  
からの数ヶ月は、そのスピー  
ドが速いようです。

そのため、抜歯をしてすぐ  
に作製した義歯は、しばらく  
すると「緩くなった」「隙間が  
できた」と感じるようになり

ます。

そして、総義歯のように大  
きな義歯をお使いの方でもあ  
ごの吸収は日々少しずつ進ん  
でいきますので、何らかの対  
策を講ずる必要が出てくるの  
です。

このような時に選ぶ方法が  
リライニングという方法で、  
当院では患者さんに「あご足  
し」と説明しております。

痩せてしまったあごと義歯  
との隙間に材料を足し、変化  
したあごに義歯を合わせてい  
く治療です。隙間を埋めるこ  
とで、物理的に食渣を挟まり  
にくいようにし、あごに咬む  
力が分散されるようになります。  
しかしながら、リライニン  
グをすることで、当たってい  
なかつた部分にも力が加わる

## 休診日のお知らせ

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 休診	4 休診	5 休診	6 休診
7 休診	8	9	10	11 休診	12	13
14 休診	15	16	17	18	19	20
21 休診	22	23	24	25 休診	26	27
28 休診	29	30	31	5月		

5月の休診日は右記の通  
りです。患者様にはご迷惑  
をお掛けしますが、よろし  
くお願い致します。

ことなるため、調整が必要  
となる場合もあります。合わ  
なくなってきた義歯をそのま  
ま使用していると、歯や咬み  
合わせに影響が及ぶこともあ  
りますので、状況に応じてリ  
ライニングをすることも一つ  
の治療方法なのです。

快適に義歯をお使い頂くた  
めにも、定期検査・定期処置  
をお勧め致します。

## ある日のスタッフ

今月は歯科衛生士の中野有美です。

◆ ◆  
昨年、子どもを出産して現在母親としても頑張っている最中です。子どもの成長はとても早く、つい最近まで出来なかったことが数日で出来るようになってきたりと驚きの毎日です。

仕事で疲れて帰っても、子どもの笑顔を見るだけで心が癒やされています。

## 研修会に参加して

3月に秋田県歯科医師会館にて行われた「訪問歯科診療における課題と対応」というセミナーに参加してきました。

講師の先生は歯科衛生士の資格以外にも、リンパ療法士・介護支援専門員などの資格を持つ方でした。セミナーは座学で進めていくものではなく、動画や写真・実技が多く、とても分かり易く楽しいものでした。



子どもは、よく遊んでくれる祖母が大好きで、私よりも祖母を見つけると大喜びします。近くに私がいるのに、祖母がいなくなるその後追いついたり、母親を勘違いしているのではないかとと思う時があります。

その時は少し寂しくなりますが、祖父母も可愛がってお世話してくるので本当に感謝しています。

仕事との両立は大変な時も多くありますが、子どもとのコミュニケーションをよく取り、頑

張り過ぎず楽しみながら子育てしていきたいなと思います。暖かくなり、これから家族みんなで色々な所へ出掛けて沢山の思い出作りをしたいです。



患者さんの中には片麻痺の症状がある方や、筋肉をうまく動かせない方がいらつしやいます。こうした方々は食事をとったり話をしたりするのも困難です。そこで今回は、口を閉じられなかったり嚥下できない場合の食事の仕方などを実習して体験しました。

実際に食べ物を飲み込めない、と口の中が気持ち悪く感じたり、口を閉じなければ飲み込みが難しくなったりといったことを体

験して、気付くことがたくさんありました。

また、食事をするのが難しくなってしまった方がどのようにして食べられるようになるかという訓練や筋力トレーニングの仕方も学びました。

セミナーに参加し一番感じたことは、患者さんが今どのような状態で食事をしていて、どのような気持ちでいるのかを理解していないと、相手の立場に立ってケアを行うことは難しいということでした。

何が大変なのか、どうして食べられないのか、それを知るためにも体験をして気持ちを知ることがとても大切だと思いました。

講演会は毎回学ぶことが多いので、たくさんの方を気付かすために、また参加していきたいです。 — 小助川 —

